

## 活動報告

### 2021年度 学生自主企画研究成果レポート

#### 保見団地に住む外国籍の子どもを対象とした

#### 「楽しみながら学ぶ日本語教室」によって得られる学習効果

外国語学部 スペイン語圏専攻教員 谷口智子(監修)  
スペイン語圏専攻4年 河村留利、山村桂子  
スペイン語圏専攻1年 上村茉莉 米山茄穂  
国際関係学科4年 澤井映里  
スペイン語圏専攻1年 小豆澤花暖、太田朱音

### 第1章 研究背景

#### 1.1 はじめに

1990年の「出入国管理及び難民認定法」の改正以降、愛知県豊田市保見ヶ丘地区(以下、保見団地)には、ブラジル人住民をはじめとする外国籍住民が集住するようになった。2021年のデータ<sup>1</sup>によると、保見団地の全住民人口6,812人の内、日本人は44%を占める3,006人、外国人は55%を占める3,806人である。外国人居住者の内訳では、ブラジル人は87%と高い割合を占め、次いでペルー人が4%、ベトナム人が4%である。

しかしながら、同じコミュニティに日本人と外国籍の人が共生する中で、日本人住民の高齢化や両者の棲み分け化が進んでいた。(植村俊:2014 134)また、ゴミの分別や騒音などの生活マナーにおける問題、外国籍児童生徒の不就学や日本語能力の問題、母語継承が課題として挙げられる。

このような課題に対して、保見団地ではNPO法人等による多くの支援活動が行われている。外国籍児童に対しては、日本語教室やプレスクール事業、放課後学習支援、就学支援等を展開している。例えば、NPO法人「トルシーダ」は、保見団地において約20年間にわたり日本語教室や体験活動などを通じた外国籍の子どもたちの「居場所づくり」に専念している。

研究活動に際し、日本語支援等を行うNPO法人の職員から、「外国籍児童の日本語の語彙力が不足している」との声を受けた。また、学生側の視点として、子どもたちが在籍する小学校やNPO法人による日本語教育活動において、「子どもたちは机上中心の学習で、楽しく学ぶことができているのか」、また、「子どもたちとその保護者に対して個別にフィードバックができていないのか」という問題意識があった。これらの背景と問題意識から、楽しみながら日本語を学ぶ環境づくりを行い、教室活動を行う中で、個々の子どもに応じた家庭へのフィードバックを行えないかと考え、本研究に至った。

<sup>1</sup> 豊田市(2021)「豊田市外国人データ集(令和3年10月1日現在)」豊田市経営戦略部国際まちづくり推進課

## 1.2 研究目的

本研究では、以下の3点を通して、外国籍児童が「楽しみながら成長できる」教室づくりの第一歩に寄与することを目的とする。

- ① 日本語指導に加え、机上以外での学習活動を含む教室活動の実施
- ② 外国籍児童の日本語能力を測り、技能を「見える化」すること
- ③ 保護者へのフィードバック

研究を通して、外国籍児童各々の伸ばすべき技能のポイントを知り、フィードバックを行うことによって、教室活動における学習だけではなく、家庭学習など教室外での学習に役立て、家庭で子どもの言語習得や将来について考える機会づくりにつなげたい。

## 1.3 研究方法

なお、①教室開催に関しては、保見団地に住む小学校低学年の外国籍の児童10名程度を対象に活動を行った。NPO法人「トルシーダ」が開催する「ほみっこサロン」<sup>2</sup>に通っていた児童に募集をかけた。②技能の「見える化」には、文部科学省作成、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント」<sup>3</sup>(以下、アセスメント)という指標を使用した。〈はじめの一步〉(「導入会話」及び「語彙力チェック」と「話す」「読む」「書く」「聴く」の4つの技能から構成されているが、本研究では〈はじめの一步〉内、5分程度の「導入会話」と語彙カードによる「語彙力チェック」のみを実施した。また、③参加者親子に対してインタビュー調査を実施した他、アセスメントの集計結果と分析をまとめた資料を配付し、口頭でのフィードバックを行った。

## 第2章 活動概要

### 2.1 教室活動





1.2研究目的で述べた①教室活動に関して、本研究では「土曜日教室」と称し、毎週土曜日の午前9時から11時に県営保見集会所にて実施した。教室活動と並行して、7月・8月にはアセスメントの〈はじめの一步〉を実施した。教室の主な内容は、読み聞かせ、勉強、工作などである。また防災、ごみの分別などテーマを設定して学ぶ「テーマ学習」、子どもの希望に合わせて外での遊びや観察の時間も定期的に設けた。2021年6月12日に第1回土曜日教室を開催し、現在までに計27回開催した。9月は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、緊急事態宣言が発令されたため対面からZoomを用いたオンラインでの開催に切り替えて教室活動を行った。以下は実際の教室活動のスケジュールとその様子である。(写真はすべて研究員撮影)




---


<sup>2</sup> NPO法人トルシーダ「ほみっこサロン」：ポルトガル語が話せる高校生、大学生を指導者として、小学1・2年のブラジル人児童を対象に教科学習の補修、母語などの読み聞かせを行う。  
jimdofree.com (最終閲覧日：2022年1月12日)

<sup>3</sup> 文部科学省「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」  
<https://sites.google.com/site/dialogiclanguageassessment/> (最終閲覧日：2022年1月19日)

表1 教室スケジュールとその様子

6月	12日	第1回土曜日教室開催 自己紹介・名札づくり・読み聞かせ・読み聞かせに関する工作		読み聞かせの様子
	19日	読み聞かせ・工作・持参した宿題などで勉強		
	26日	新型コロナウイルスの影響に伴い活動一時中止		
7月	3日			
	10日	・読み聞かせ ・読み聞かせに関する工作 (絵本の登場人物の色塗り、台詞を自分で考え、吹き出し内に書く)		工作の様子
	17日	テーマ学習:防災① ・災害、防災の概念を絵カードで学習 →知っていること、気づいたことについて子どもたちが発表  ・研究員作成・出演の動画を通して地震発生時の行動を学習 →体を動かして実践		発表する様子
	24日	テーマ学習:防災② ・防災①で学んだ内容の復習 ・自分の防災バックを考える工作 ・身分証明書作成のワーク		工作の様子
	31日	◆第1回アセスメントの実施 ・読み聞かせと勉強、外遊び		
8月	7日	◆第2回アセスメントの実施 ・読み聞かせ ・テーマ学習 (お父さんお母さんや、自分の好きな人に向けてメッセージカードを作成)		
	14日	悪天候のため不開催		

	21日	スタッフで地球広場を清掃(登校日により子どもたち不参加のため)	
	28日	緊急事態宣言発令に伴い、オンライン教室へ切り替え(Zoom)	
9月	4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>→絵本をpdf化して画面共有</li> <li>→ブレイクアウトルームも活用し、絵本を複数用意は継続</li> </ul>	 <p>読み聞かせの様子</p>
	11日		
	18日	<p>オンライン教室(読み聞かせ など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あのねタイム」を設ける…オンライン上でも全員が話す機会があるよう、話したいこと、最近あったことを共有する時間</li> </ul>	 <p>外での観察の様子</p>
	25日	オンライン教室(読み聞かせ など)	
10月	2日	・地球広場の清掃、読み聞かせ、外遊び(対面に戻る)	
	9日	・地球広場の清掃、読み聞かせ、公園で観察	
	16日	<p>テーマ学習:豊田市のごみ分別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強したことをもとに保見団地周辺をごみ拾い</li> <li>・ゴミ袋を持つ係・拾う係に分かれ、子どもたち同士で「何のごみか」を考えながら活動</li> </ul>	 <p>豊田市のごみ袋で実践</p>
	23日	・読み聞かせ、観察、ごみ拾いと分別	
	30日	・保護者会の開催とアンケートの実施、読み聞かせ	
11月	6日	・読み聞かせ、勉強、観察	
	13日	<p>「ミニ先生」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ、勉強、観察</li> </ul>	
	20日	テーマ学習:勤労感謝の日	
	27日	<p>◆聞き取り調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ、ゲーム、勉強</li> </ul>	
12月	4日	・読み聞かせ、勉強、工作	
	11日		
	18日	・読み聞かせ、クリスマス会に向けた飾り作り	

	25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマス会、アルバム作り</li> <li>・プレゼント配布</li> </ul>	 <p>クリスマス会の様子</p>
1月	8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ学習:お正月</li> <li>・お正月について学ぶ</li> <li>・年賀状作り</li> </ul>	 <p>年賀状作成の様子</p>
	15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ、勉強</li> <li>・8日に作成した年賀状をポストに出す</li> </ul>	

## 2.2 JSL 対話型アセスメントについて

文部科学省によると、公立学校に在籍する日本語指導が必要な児童生徒は増加している。<sup>4</sup>彼らの具体的な言語能力のイメージが共有されていないという状況を踏まえ、同省「外国人児童生徒の総合的な学習支援事業」の一環で、全国的にどの学校でも利用可能な日本語能力の汎用的な測定方法として開発されたものが、外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメントである。このアセスメントは「対話型」を基本とし、導入会話と、〈話す〉〈読む〉〈書く〉〈聴く〉の4技能から構成される語彙力チェックから言語能力を測定する。

## 2.3 アセスメントの実施

7月31日、8月7日、10月30日、11月6日に教室参加児童に対し、〈はじめの一步〉を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、一時中断せざるを得なかったため教室参加者全員には実施することができなかったが、計9名に行うことが出来た。

表2 アセスメント実施者内訳

日本語のみ…5名	
日本語+ポルトガル語…2名	
日本語+スペイン語…2名	計9名

<sup>4</sup> 文部科学省「『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成30年度)』の結果について」文部科学省総合教育政策局 [https://www.mext.go.jp/content/20200110\\_mxt-kyousei01-1421569\\_00001\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200110_mxt-kyousei01-1421569_00001_02.pdf) (最終閲覧日:2021年1月22日)

## 2.4 アセスメントの考察

全体の傾向として、子どもたちのほとんどは形容詞の得点が高いことが分かった。一方で子どもたちの正答率が全体的に低い単語例を挙げていく。「まつげ」という単語は、特に正答率が低く、正しく答えられたのは9名中1名であった。その中でも「まゆげ」と混同している例が多かった。これは、同じ顔の部位であり、似ている語であるため、間違いやすい傾向があるのではないかと考えられる。また「ひきだし」という単語も9名中5名が「わからない」と答えた。表3にその他誤答例をまとめた。

表3 誤答例

2. まつげ	→	まゆげ
3. くちびる	→	くちぶる
23. えだ	→	いだ
30. つくえ	→	くつえ
38. いしゃ	→	おいさん
39. しょうぼうし	→	しょうぼうしよ・しゃ

次に、アセスメントの実施を通して考察した3点を挙げる。

### ① 家庭で日本語を使用するかどうかは日本語のイントネーションに影響

語彙力チェックの結果から、両者とも日本生まれ日本育ちだが、日本語のイントネーションに違いがある児童Aと児童Cを取り上げる。保護者に行ったアンケート<sup>5</sup>上では、二人の母語はポルトガル語である。CはAと比較して、日本語のイントネーションがポルトガル語寄りであった。この結果は家庭でどのくらい日本語を使用しているかが関係しているのではないだろうか。Aは家庭内では日本語とポルトガル語で、Cは家族全員とポルトガル語でそれぞれ会話をしている。在日年数はAで8年、Cは10年とAの方が2年短いにも関わらず、日本語のイントネーションが日本語母語話者に近い。これらのことから、家庭で日本語を使用するかどうかにより違いが生まれているのではないかと考えた。

### ② 役割意識と学校での人間関係が語彙の豊かさにつながっている

語彙力チェックの中で90%以上と高く得点し、語彙が豊富であると判断された児童は3名であった。この3名のうち、児童AとBの2名の導入会話の「友達はある？」に対する回答として

A「たくさんいる。クラスのみんなが友達。2年1組2組さんもみんな友達」

B「(個人名を挙げたのち)でもいっぱい、あの40人くらいいるから。」「1年生にもいるし、6年生にもいるし。」

<sup>5</sup> 教室活動が始まる前に Google フォームで保護者の方に回答をいただいたアンケートである。質問項目は巻末資料1参照。

という発言があった。以上のように他の子どもが 2、3 名の個人名のみを述べる一方で、A や B はクラスや学年などグループ単位での回答をし、学校において交友関係が広いという特徴がみられた。

また、A は「学校で先生のお手伝いをしている」「私がお手本」「いつもミニ先生ばかりやっている」、また、A は「学校で先生のお手伝いをしている」「私がお手本」「いつもミニ先生ばかりやっている」土曜日教室内において B は「学級委員長だから、しっかりしなきゃいけない」という発言がみられた。以上のことから今後の教室活動において、

1. 教室内において子どもたちに役割を与える
2. 教室を大学生や若者が運営する

という 2 点を行っていききたい。教室内で先生のお手伝いや掃除係などの役割を与えることで、子どもの自主性と積極性を養っていきけるのではないだろうか。ま「2. 教室を大学生や若者が運営する」において、普段学校で触れ合うことのできない大学生や高校生などの若者と触れ合うことで幅広い交流を作り出すことができ、彼らの情意フィルター<sup>6</sup>を下げることで学びやすい環境づくりを心掛けていきたい。

### ③ 語彙力チェックの実施言語以外を経由して考えている

また実施言語以外を経由して回答していると考えられる例が多く見られた。児童 C は、ポルトガル語で実施した語彙力チェックにおいて、語彙カード 46 番の「着る」を示すカードを「服を…わからない。」と答えた。実施者所見、また録画資料分析を通して、C が考えている様子から推察されるのは、ポルトガル語の *trocar de roupa* の「替える」という意味の動詞「trocar」を日本語に変換しようとしているのではないかということである。

また、スペイン語で語彙力チェックを行った児童 B の「No sé que…ひげってどうやっていうんだっけ、うーん…No sé.」や「はさみはさみはさみ…tijera」などの発言からは、日本語での単語が先に思い浮かんだのちに、スペイン語を考えていることがうかがえる。表 4 は、B の語彙力チェックにおける発言を文字起こししたもの的一部抜粋である。その他にも B の場合、「B92 うーん」のように会話の間を埋めるフィラーも日本語で現れている。これは、母語であるスペイン語よりも、日本語が強まっていると考えられる例である。

---

<sup>6</sup> 情意フィルターとは、Krashen の情意フィルター仮説における言語学習における心理的障害のことである。この情意フィルターの障壁が大きいと、言語獲得装置へ送られる言語入力も減り、言語出力も減少する と考えられる（田所，2001）

表 4 スペイン語での語彙力チェックにおける発話

Y91	(カード番号)20	B92	(2) No sé que...(2)ひげってどうやっていうんだ つつたつけ、うーん (5) No sé.
Y93	(カード番号)21	B94	Árbol
Y95	(カード番号)22	B96	(2)No sé.
Y99	(カード番号)24	B100	うん、、せんぷうき、、ventirador
Y101	(カード番号)25	B102	(2)でんわ、でんわ、、llamar.
Y121	(カード番号)35	B122	(2)はさみはさみはさみ、、tijera.
Y159	¿Cómo es el lápiz?	B160	umm? ほそいふといほそいふとい、、
Y161	¿Este,, es grueso, neh?	B162	grueso,, y ,, no sé

(Yは実施者(筆者)、Bは児童Bを表す。( )の数字は沈黙秒数、Y、Bの次の番号は発話番号を表す)

また C は、日常的に家族とはポルトガル語のみで話しており、母語であるポルトガル語を経由して日本語の語彙を考えている様子が見えられた。B は、家庭で母や祖母とはスペイン語を話す、学校生活においてや、日常的に多く使用している言語は日本語である。このように、母語と日本語のうち、より強い言語を経由して他方の言語を考えていると思われる。

### 第3章 教室参加児童親子への聞き取り調査

#### 3.1 調査概要

第 2 章で実施した〈はじめの一步〉に加え、教室への参加児童とその保護者の親子一組に対し半構造化聞き取り調査を行った。実施に至った理由としては教室活動を通して、家庭環境や児童の性格など「導入会話」や「語彙力チェック」だけでは確認できない言語習得に影響を与える要素の手がかりを得られると考えたためである。

- ① 日本語と母語のポルトガル語ともに語彙力チェックの正答率が 90%と高得点である
- ② 継続的に土曜日教室に参加している
- ③ 児童および保護者の方との関係性づくりができています

以上 3 点を基準に参加児童 A さんと A さんの母(以下、G さん)を聞き取り調査の対象者とした。また、本調査はすべて日本語で行った。

#### 3.2 調査内容

表 5 に対象者の基本情報を、表 6 に質問内容をそれぞれ表した。



表 5 対象者の基本情報

	A さん	G さん
滞日年数	8 年(日本生まれ)	20 年
母語	ポルトガル語	ポルトガル語
家庭内で日本語を話す人	G さん	A さん
家庭内で母語を話す人	父	夫(A さんの父)

表 6 質問内容

① 子どもの言語習得で困ったこと	いつ
	何に
	なぜ
	誰に/どこに相談したか
	どのように解決したか
② その他困ったことはあったか	いつ
	何に
	なぜ
	誰に/どこに相談したか
	どのように解決したか
③ 子どもと会話するときに気を付けていること	
A さんが生まれたときに夫婦で話し合ったか	
日本語とポルトガル語のバランスはとれているか (言語は混ざらなかつたか)	
④ 日本語とポルトガル語の両方で教育することを選択した理由は	
⑤ 言語面で子どもに求めていること →日本語	聞く
	書く
	話す
	読む
→ポルトガル語	聞く
	書く
	話す
	読む
⑥ それぞれの言語を家庭で勉強しているか	
教材は使用しているか	
誰と勉強しているか	
どのように勉強しているか	頻度
	時間
	内容

### 3.3 調査結果

調査を通して、言語面では困ったことがなく、健康面での苦労が多かったと答えていたのが印象的であった。しかし、日本語習得や母語の維持において影響があると考えられる以下4点の特徴がみられた。

#### ① ブラジルに住むGさんの母(Aさんの祖母)との定期的な連絡

表6の「⑥それぞれの言語を家庭で勉強しているか」の問いに対し、Aさんはポルトガル語を忘れないよう、毎週、まれに毎日祖母と電話で連絡を取っていると答えた。

#### ② 「勉強」とせず楽しく学ぶ

Aさんは小さい時に『カーズ』(2006)<sup>7</sup>が大好きであり、YouTubeで英語、中国語、タイ語、など多言語で視聴していた。映画の視聴を通し、様々な国の言葉を覚え、話していた。そして、こども園入園以前Gさんはポルトガル語でAさんとアルファベットや数字、色、方向などを使って遊んでいた。

またこども園入園後に、「もっと(日本語を)教えたいから」とAさんに対しGさんは日本語、父はポルトガル語と話す言語を決めた。家庭で勉強する際は「ゲームをたくさんやってた」と話した。例えば、床にクレヨンで数字をたくさん書き、「右足、1」など楽しく数字や左右を覚えていたという。Gさんも「たぶん楽しいことだから、もっと覚えやすいと思う」と話した。

#### ③ 教員であった祖母とこども園で働いていたGさん

Gさんの母はブラジルの小学校1年から4年生までの教師であった。Gさんが小学生のころ、母の授業について行っていた。そこでいろんな遊び方などを覚えていたという。またGさん自身もブラジルに在住していた際にこども園で働いていた。

#### ④ 家庭内ではAさんが日本語の先生

Aさんは日本語と母語であるポルトガル語どちらも話すことができるが、日本語のほうが好きであると答えた。家庭内でも日本語をポルトガル語に直したりするなど、通訳するときもあるという。また父に日本語を教えており、「おうちでは私が(日本語の)先生だから」と答えた。

また今日は遊ぶ日、ゲームをする日などといったように、その日やることはAさんが決めるなど、強制することはせず子どもが主体となった学習環境が特徴としてあった。

### 3.4 考察

3.3で挙げた特徴の中で気づいたこととして、Aさんはゲームなどを通してポルトガル語および日本語を楽しく学んできている。小学校教諭の母を持ち、自身もブラジルのこども園での勤務経験があるGさんが母の教え方の工夫・ノウハウを覚えており、関心が高かったこと、

<sup>7</sup> ジョン・ラセター, ジョン・ランフト. カーズ 監督 (2006) 『カーズ』(ピクサー・アニメーションスタジオ)

また G さん自身も楽しいことだから覚えやすいと考えることなどが A さんの楽しみながらまた主体的に学ぶという現在のスタイルに影響しているようにも思われた。

そして現在もポルトガル語を話すことが出来る背景として、家庭内で父とポルトガル語で会話することに加え、ブラジルに住む A さんの祖母と定期的に連絡を取っていることも大きな要因であるだろう。

### 3.5 課題点

本研究では A さん親子の一組のみに対し聞き取り調査を行ったため、傾向を把握することは出来なかったが、今後において調査、分析すべき項目に気づくことが出来た。それは、保護者の滞日年数や日本語のレベルを比較することである。G さんは滞日年数も 20 年と比較的長く、また A さんが子ども園に入学した際は話しかける言語を日本語に切り替えるなど、A さんが幼いころから日本語を話すことが出来ていた。今回、日本語能力のレベルを確認するなど G さんに対して深く掘り下げて質問することが出来なかったが、第 2 章での結果にもみられたように、同じ日本生まれ日本育ちの児童同士でも語彙力チェックの正答率や発話時の特徴が異なることを踏まえると、家庭内での使用言語は勿論、保護者の滞日年数や日本語能力を把握したうえで分析することが必要であった。今後は児童の属性のみならず、保護者の属性についてより掘り下げ、比較・分析していきたいと考える。

## 第4章 「楽しみながら学ぶ」方法と考えられる学習効果

これまでの教室活動、アセスメントの実施と分析、インタビュー調査を通して考察できる「楽しみながら学ぶ」方法と考えられる学習効果について言及する。

「楽しみながら学ぶ」教室づくりのために以下の 2 点を意識した。

一つ目は「勉強を強制しない」ことである。子どものイメージでは「勉強」というと、机上学習と結びつきやすいため、決まった学習にとらわれない方法で学びにつなげる努力をした。そのような実践の積み重ねが、第 3 章で述べた A のように、主体的に学ぶ態度につながるのではないかと考える。

二つ目は「一人ひとりに寄り添った教室活動」である。大学生が参加する子どもそれぞれにつくことで、その子の得意・苦手を把握して、子ども自身の楽しく学べる方法を見つける努力をした。

### 4.1 実際に大学生スタッフが実践した「楽しみながら学ぶ」方法の具体例

実際の教室活動において、大学生スタッフが一人ひとりに寄り添っている間、勉強を強制しないで「楽しく学ぶ」ために行った工夫の具体例と、子どもの反応、変化について述べる。

例1 読み聞かせをしたくない子に対して、その子が好きな工作をしながら日本語で説明をしてもらった。

例2 宿題の時間にワークはやりたくない子に対して、都道府県カルタで学ぶ、絵を描く、好きなことを説明してみるなどその子に合わせた楽しい学びに転換した。

例3 読み聞かせの時間に、大学生スタッフが一方的に読むのをやめて、絵本を自分で読

みたい子どもに、自主的に読んでもらった。その際、子ども自身が丸読み(句点よみ)をし、分からないところがあれば子ども同士で教え合った。読みの間違いも補う様子が見られ、活動初期に比べて自分で読みたいという子が増えた。

例4 外遊びの時に、絵を書くことが好きな子は虫や花の観察を紙に記録して、大学生スタッフに説明した。

例5 読み聞かせの時間に、動物のフィギュアで遊びたい子どもが大学生スタッフとともに動物の名前を紙に書いた。さらにその動物の食べるものを考え、草食と肉食の学習をした。助数詞(〇頭、〇匹)やひらがなの書き順の指導も同時に行った。この際、初期の教室で試みた「本の感想を書こう」の時と比べて、より自分の興味のあることに関連していた書くことに意欲的であった。

このように、子どもの興味・関心に寄り添い、机上以外の活動において学びにつながる要素を取り入れた。

#### 4.2 教室活動でみえた「楽しみながら学ぶ」：結論と限界

「楽しみながら学ぶ」とは、前述したとおり、子どもによって異なり、正解はない。しかしながら、子どもに寄り添うことでその子の楽しみながら学ぶ方法が見えてくる。本研究において、「楽しみながら学ぶ」とは、「子どもが強制的圧力を感じずに、自らが必要性や喜びを感じて行動できるような学びである」と現時点で結論づけられる。一方で、子どもが興味・関心を持つことのみに着目した学びをしていると、一定の偏りに陥りやすいのではないかと考える。例えば、やりたくないと言えればそれを尊重して子どもの好きなことのみをやっても本当にその子の支援になるだろうか。子どもが苦手だと感じていることをいかに楽しく学んでもらうかは模索し続けなければならない。

### 第5章 おわりに

テーマであった「楽しみながら学ぶ日本語教室」という活動を通して、子どもたちに専門的な日本語の文法や句型を本格的に教えるには、専門知識を持つ日本語教員課程の知識が必要だと改めて認識した。したがって、今回の活動では資格のない学生で可能だと考えられる子どもの学習支援に加え、私たちの活動が子どもにとって居心地の良い場所になることを目指した。そして、アセスメントの実施と分析を行いながら、「楽しみながら学ぶ教室」の基礎作りに専念した。子どもたちそれぞれに1対1で大学生が隣につけるようにすることで、その子の個性や性格を考慮した「楽しみながら学ぶ」方法を模索した。

教室で考察できたことは、「たのしい」とは、子どもによって多様である。例えば、工作、観察、歌、大学生のお姉さん・お兄さんがいる環境、友達がいること、学校とは違う環境であることなど子どもによって様々であり、一概にこれが楽しいと私たちが決めつけることはできない。

今後外国につながる子どもへの支援活動として、「ハイブリットな教室活動」、「幅広い人間関係」、「リラックスできる環境」の三点が重要であると考察した。外国につながる子どもたちの本当の支援を成し遂げるためには、日本語の支援だけではなく、学習支援や居場所として機能する場所づくりなど、ハイブリットに組み合わさる教室活動が必要だということがわかった。また、調査する中で、同級生のみならず、年上の人とのコミュニケーションなどの幅広い人間関係が

重要であるとの考察に加え、教室活動を大学生や若者が主体で行うことで、子どもたちがよりリラックスして、効果的な言語学習に寄与できるのではないかと考えた。

愛知県立大学の学生自主企画研究を基盤に市民活動団体 JUNTOS が誕生した。今後の保見団地における教室活動は、この団体に引き継がれることによってよりよい形を追求し続けられるだろう。そして、「本当の多文化共生」を目指すことは、外国につながる子どもたちやその家族を対象とした研究を実施することではない。その研究を通して、課題や現状を明らかにすることで、国籍や異文化を通り越した先に、地域住民が共生する場所を目指すことであろう。本研究を通して、活動の継続がその地域に寄り添い、共に生きていく第一歩であると実感している。

## 謝辞

この度、学生自主企画研究を実施するにあたり、何よりも初めに、毎回元気に参加してくれた子どもたち、彼らを毎回連れてきてくださった保護者の皆様に厚く感謝申し上げます。また、感染症の拡大にも関わらず、県営保見集会所を使用させてくださった木村区長はじめ、自治区の皆様にお礼を申し上げます。保見団地の方々と関わるうえで、中京大学の斎藤先生、並びにゼミ生の皆さんには大変お世話になりました。そして、保見、三好などの日本語教室でボランティアとして多くの学びを与えてくださった NPO 法人トルシーダの皆様、右も左も分からない私たちに色々なことをお話くださり、非常に勉強になりました。ありがとうございました。瀬戸市の菱野団地で継承語教室を運営している金箱亜希さんにも多くの助言を賜りました。最後に、終始温かく見守ってくださった指導教員の谷口先生にも心から御礼申し上げます。

## 参考文献・資料

- 植田俊(2014)「ニューカマー外国人との『共生のまち』づくりに向けた 社会関係の再編におけるスポーツに関する研究 ―愛知県豊田市保見団地におけるフットサルコート の設立と利用をめぐる―」SSF スポーツ政策研究 第3巻1号 pp.131-134
- 櫻井千穂(2018)『外国にルーツをもつ子どものバイリンガル読書力』大阪大学出版会
- 田所真生子(2001)「外国語学習における学習者の上位要因に関する考察」『ことばの科学』名古屋大学言語文化部言語文化研究会、第14巻、pp.303-320
- 豊田市(2021)「豊田市外国人データ集(令和3年10月1日現在)」豊田市経営戦略部国際まちづくり推進課
- 文部科学省「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」  
<https://sites.google.com/site/dialogiclanguageassessment/>  
(最終閲覧日:2021年10月26日)
- 文部科学省『『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成30年度)』の結果について』文部科学省総合教育政策局  
[https://www.mext.go.jp/content/20200110\\_mxt-kyousei01-1421569\\_00001\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200110_mxt-kyousei01-1421569_00001_02.pdf)(最終閲覧日:2021年1月22日)

## 資料1 Google フォームによる保護者アンケート(研究員作成)



### 土曜日教室 アンケート Questionário de Aulas aos Sábados

こんにちは！  
私たちの土曜日教室に参加してくれてありがとうございます。  
教室をよりよいものにしていくため、子どもたちの言葉の力の状況や子どもたち自身のことを深く知るためのアンケートにご協力をお願いいたします。

私たちは大学生主体で学習支援を行っており、外国にルーツをもつ子どもたちの日本語能力の向上やキャリア形成の手助けをしたいと考えています。  
そこで、今回の土曜日教室では「アセスメント」という言語能力の調査を行うことで日本語能力の向上を図り、参加する子どもたちにあった学習支援を行いたいと考えています。  
アセスメントで行う語彙チェックでは、確認のため録音・録画を行います。

加えて、この土曜日教室は愛知県立大学の学生自主企画研究の助成金のもとで行われており、活動内容やアセスメントの結果が報告書としてまとめられる予定です。

このアンケートで得た情報は、研究以外の目的で使用されることはありません。

所要時間は大体10分程度です。  
参加するお子さんが複数であれば、人数分のアンケートの提出をお願いします。  
(例えば、3人の場合は3回アンケートに回答してください。)

この趣旨に賛同いただける方は、以下の質問に回答をよろしくお願いたします。

※回答期限は7月3日(土)です。

Olá, pessoal!

Agradecemos a participação nas nossas aulas de sábado.

Para melhorarmos as aulas, pedimos que responda esse questionário que ajudará a entender melhor a capacidade linguística das crianças, além de conhecê-las melhor.

Somos um grupo liderado por estudantes universitários e começamos nossa atividade com o intuito de poder ajudar no estudo da língua japonesa e a na formação de carreira de crianças que tem raízes estrangeiras.

Para isso, gostaríamos de realizar uma pesquisa sobre a capacidade linguística que se chama Assesment (avaliação), dando um suporte adequado para a criança.

Para que possamos confirmar o resultado, a avaliação dos vocabulários serão gravados em som e imagem.

As aulas aos sábados estão sendo realizadas com a bolsa de pesquisa planejada pelos estudantes da Universidade da Província de Aichi. Por isso, o conteúdo das aulas e resultados do Assesment (avaliação) serão organizados em forma de relatórios.

As informações desse questionário não serão utilizadas para nenhum propósito, exceto como relatório que será entregue à Univerdidade da Província de Aichi.

Basta apenas 10 minutos para responder o questionário. Pedimos o favor de responder um para cada criança que irá participar das aulas.

(Por exemplo, se tiverem 3 crianças como

participantes, envie 3 questionários, um para cada criança)

Se aceitar a finalidade da nossa atividade, por favor responda o questionário abaixo.

O prazo de entrega é até o dia 3 de julho (sábado)

\*Campo obrigatório

[Google](#) にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

\*必須

参加する子どもの名前を教えてください。 Nome da criança que irá participar. \*

回答を入力

参加する子どもの母語を教えてください。 Qual é a língua materna do seu filho/ da sua filha? \*

- 日本語 japonês
- ポルトガル語 português
- スペイン語 espanhol
- その他: \_\_\_\_\_

参加するお子さんの在日年数を教えてください。 Há quantos anos seu filho/sua filha mora no Japão? \*

回答を入力

参加するお子さんが来日した時の年齢を教えてください。 Qual a idade do seu filho/da sua filha quando veio ao Japão? \*

回答を入力

参加するこどもたちは、家庭で誰と何の言語で話していますか。例) 父、母—ポルトガル語 祖父母—スペイン語 兄弟—日本語 Qual a língua usada pelo seu filho/ pela sua filha com cada membro da família. (Por exemplo, com mãe e pai->português, com os avós->português, com os irmãos-> japonês) \*

回答を入力

子どもの年齢を教えてください。Qual idade do seu filho / da sua filha? \*

回答を入力

小学校何年生ですか。Qual o ano escolar que frequenta? \*

小学校1年生 1° ano

小学校2年生 2° ano

小学校3年生 3° ano

小学校4年生 4° ano

小学校5年生 5° ano

小学校6年生 6° ano

その  
他: \_\_\_\_\_

誕生日を教えてください。Data de nascimento \*

YYYY MM DD

\_\_\_\_ / \_\_\_\_ / \_\_\_\_

子どもの教育にあたって最も重要視している言語はどれですか。Qual língua você acha o mais importante para a educação do seu filho/ a sua filha?

日本語 japonês

ポルトガル語 português

スペイン語 espanhol

その  
他: \_\_\_\_\_

回答ありがとうございます！ Obrigad@ pela resposta!

